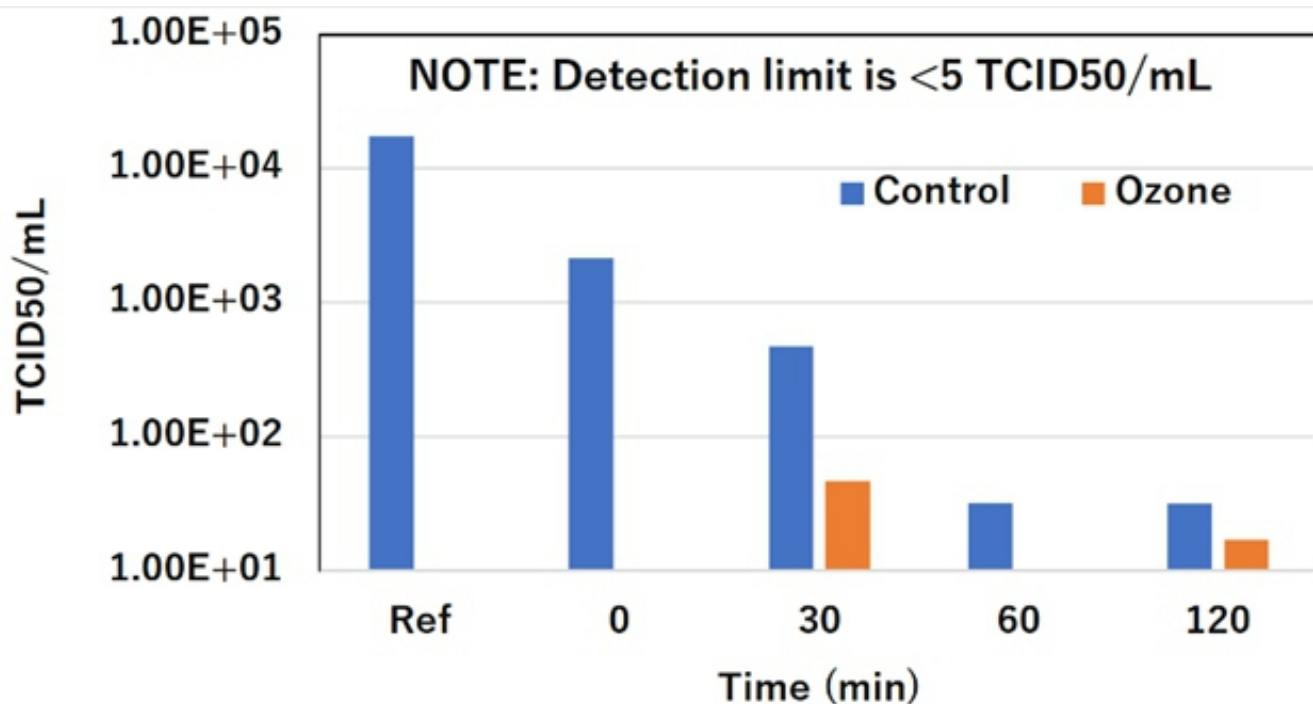
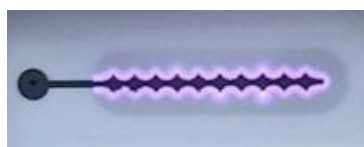


株式会社増田研究所は、沿面放電型オゾン生成器⁽¹⁾から発生するオゾンガスが、ウイルス不活化効果^(注)を持つことを独立行政法人国立病院機構仙台医療センターウイルスセンター、日本特殊陶業株式会社、メディエアジャパン株式会社との共同試験において実証しました。



温度湿度(20°C、50%)を一定に保った1m³の密閉チャンバー内にコロナウイルス(コロナウイルス229E)のスーマ(塗抹:厚さ3-4μm)をおいたガラスシャーレを置き、低濃度オゾン(50ppb程度にコントロール)を発生させた場合にウイルス不活化が促進されました。

- (1) セラミック製誘電体を挟んで面状電極と線状電極を設置し、両電極間に高周波高電圧を印加して線状電極からプラズマ(下図)を発生させることでオゾンを生成します。



(注) 試験は実験施設内で行なったものであり、本結果は実際の生活環境での効果を示すものではありません。